

集団指導 2 級実技試験における「特記すべき事例」について

公益社団法人全国学習塾協会

過去における実技試験における試験要項やガイドライン等に明記されている規定にやや逸脱していた事例や留意が必要な事例は、以下に通りです。ご参考になさってください。

① 模擬授業映像データの撮影条件および提出媒体に関するガイドライン関連

- ・「三脚等を用い、カメラを固定した状態で撮影すること」とあるが、講師の動きに合わせてカメラを移動しているものがありました。
- ・「撮影画面の横幅は黒板・ホワイトボード等の説明補助機材より若干広く映るように、縦幅は講師の腰より上が映るようにカメラをセットすること」とあるが、講師や板書が映像からはみ出しているものがありました。
- ・「撮影時間は15～30分以内とすること」とあるが、短すぎたり長すぎたりしたものがありました。

② 審査手順など集団指導 2 級評価マニュアル関連

- ・学習塾講師検定【集団指導 2 級】評価マニュアルにおける審査手順により、最初が《導入》5 分、《展開》がその後の 5 分、終わりの 3 分が《まとめ》であることを明示しているが、時間配分が適切でないため映像が採点に反映されないおそれのあるケースがありました。
- ・「導入」の考え方についてですが、本検定においては「当該単元について、生徒の興味を持たせる工夫をしているか」を審査し評価します。生徒に興味を持たせるためにいわゆる《つかみ》や《まくら》であっても構いませんが、それが当該単元について、生徒の興味を持たせる工夫になっていなければ、点数が入りませんので、注意して下さい。
- ・生徒に「わかる」授業であるためには、発問や理解度確認は非常に重要です。このポイントをどう表現するかで、一方的・単調・講師本位であるか、相互的・生徒本位であるかに大きな差が現れます。
- ・「まとめ」の場面で、「まとめ」の終わりを「これで説明部分を終わります。では、演習を解いていきましょう。」等とする方がいらっしゃいます。「まとめ」の終わり方は自由ですが、「本日の授業は何をしたのかの説明」、「当該単元と他の単元との関わりの説明」、「当該単元について、生徒の復習や次の予習を促す工夫」、「生徒の理解度をなんらかの方法で最終確認」、「授業の要点などの再度説明」は必要です。これらがなければ点数が入りませんので注意して下さい。

③ その他

- ・授業中の目線が偏る方がおりました。生徒の机にしるしを置くなどして意識的に行動できる工夫など一考の余地があります。
- ・板書の際に長い沈黙があったり、生徒に背を向けたままの方がおりました。コンピテンシーディクショナリにおける板書のもつ意味を熟考してください。
- ・あらかじめ板書すべきことを紙に書いて貼ってある等している方がおりました。本検定の場合は、「板書による説明」も評価項目になっていることから、板書の仕方や流れも評価しますので注意して下さい。